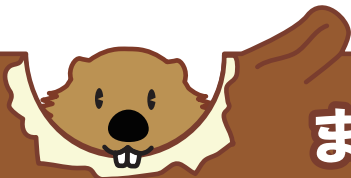


発見!!



まちの EAGER BEAVER



市ゆかりのイーガービーバー（熱心ながんぱりやさん）を紹介します。



国際大会優勝の報告で市役所を訪れた加藤さん（中央）



海外勢と激闘を繰り広げた「NATIONS WINTER CUP」

イタリアでの国際大会4連覇に貢献

加藤 蘭さん（15）松山東雲中学3年

2月にイタリアで開催されたバレーボールのU15国際大会「NATIONS WINTER CUP」に女子日本代表として出場。チェコやイングランドなど5カ国と対戦し、4連覇を果たしました。加藤さんは「ベストヒッター賞」を受賞。チームの勝利に大きく貢献しました。

姉たちの影響で、幼い頃からバレーボールは身近な存在。小学校時代にはジュニアチーム「金栄 JVC」で腕を磨き、県内強豪の松山東雲中学校に進学しました。

大会には全国選抜の女子中学生12人が出場。予選はチェコに完敗して落ち込みましたが、気持ちを切り替えて挑戦する大切さに気付かされました。その後は着実に勝ち進み、迎えたドイツとの決勝戦。5点リードを許しましたが、サーブやバックアタックをしっかりと決め、流れを引き寄せました。優勝を決めた瞬間は、「育ててくれた監督やスタッフ、両親への感謝の気持ちがあふれた」と振り返ります。

中学卒業後は県外強豪高校ではなく、愛媛にとどまることを決断。「尊敬する高橋藍選手のようにチームを引っ張るエースになりたい」。地元愛媛から、日本一を見据えます。

医療創生アイデアコンテストで文部科学大臣賞

渡辺 悠斗さん（23）香川大大学院1年（新居浜西高卒）

がんなどで声帯を摘出した人の発声を補助する器具・電気式人工喉頭。渡辺さんはジェスチャーで操作するなど使いやすさを追求した「melomo」を開発。全国の学生から医療・福祉分野の課題解決に向けたアイデアを募る「第6回医療創生アイデアコンテスト」で、最高賞の文部科学大臣賞に輝きました。

昔から絵を描くのが好きで、将来はものづくりやデザインに関する道に進みたいと思うようになりました。西高3年の時、担任の先生の勧めで香川大学工学部に進み、プロダクトデザインを専攻。現在、同大大学院で研究を続けています。

開発のきっかけは祖母の咽喉がんの罹患。幸い完治しましたが、声帯摘出で声を失った人にデザインの手で貢献したいとの思いが強くなり、卒業研究のテーマとしました。医師やメーカーにも協力を仰ぎ、課題を抽出。従来製品は手で持って喉元に当てますが、首に装着するハンズフリー型に。内蔵カメラで手指の動きを感知し、抑揚や強弱を簡単に調整できるようにしました。洗練されたデザインも特長。今後も改良を重ね、商品化を目指します。

「学校の先生をはじめ、周りの人の助けがあって今につながったと思います」。これまでの出会いに感謝の言葉を紡ぎました。



コンテストで新たなつながりも生まれたという渡辺さん



文部科学大臣賞を受賞した「melomo」